

大牟田市役所

大牟田市は 1917 年に市制施行したが、最初の大牟田市役所は、1933 年に焼失した。

現在の鉄筋コンクリート製の市役所は 1936 年に完成した。

外観は当初、フランク・ロイド・ライトが設計した東京にある帝国ホテルと同じ種類の縦に溝の入った煉瓦でタイル張りされていた。中央塔と左右対称の 2 つの翼棟からなる建築様式は戦前の政府庁舎の典型的なものである。

1 階は一部地下になっており、公式な入口は 2 階にある。中央の階段は大理石製である。

市長の執務室と会議室は 3 階にある。4 階にはかつて VIP ルームがあり、南アジアの影響を受けたデザインの、アーチ型天井、カーテンボックス、暖炉が備え付けられていた。VIP ルームは現在市の職員オフィスに改装されている。

第二次世界大戦中、炭鉱や工場を標的としたアメリカ軍の焼夷弾爆撃により、大牟田市の大部分が破壊された。市役所にも爆弾が落ちたが、爆発はしなかった。市役所の屋上には、機関銃の台座と航空監視用の囲いの跡が今も残っている。

大牟田市役所は、国の登録有形文化財に指定されている。